

1 日時 2023年（令和5年）10月27日（金） 3校時

2 学年 第5学年3組（計36名）

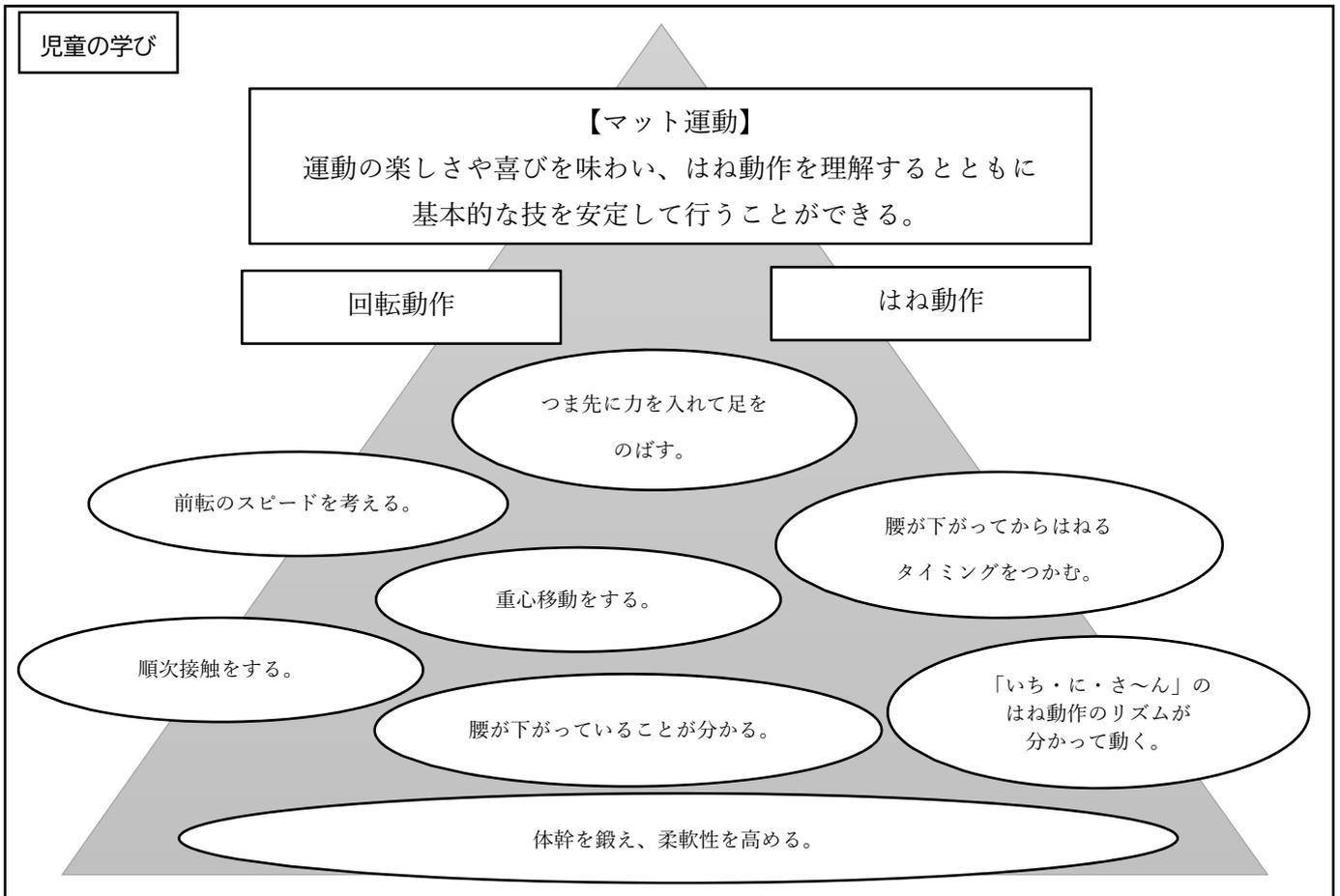
3 単元名 「めざせ！はねマスター！」（B 器械運動、A マット運動）

4 単元について

(1) 単元の捉え方

マット運動は、回転系（接転技群前転グループ、接転技群後転グループ、ほん転技群倒立回転グループ）と巧技系（平均立ち技群倒立グループ）に分類することができる。マット運動は、日常生活にはあまりない「回転する感じ」や「逆さになる感じ」といった特有の感覚を味わったり、技の繰り返しや組み合わせによる楽しさや喜びを感じたりすることができる運動である。さらに、新しい技や動きができるようになったり、今できる動きがよりよくなったりするなど、できなかったことを克服し、高めていくことについても楽しさを味わうことができる運動である。

この単元で扱う前転ブリッジは、はね動作をともなう動きであり、首はねおきや頭はねおきにつながるものとなる。このはね動作を行うためには、両腕で支持してゆっくり回ること、力を入れたりぬいたりすること、膝を伸ばすことが大切である。はね動作を学習する際には、はねるタイミングだけではなく、腰が沈み込んだ後、腰を上げて上体を反らすはね方も意識させたい。また、補助具や友達同士で補助するなどして、すばやく腰角を広げることを学んでいくようにする。



(2) 児童の学びの姿 【体育についての意識・技能調査】

	肯定的評価	否定的評価
①運動は好きですか。	88%	12%
②体育の授業は楽しいですか。	91%	9%
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や遊ぶことが好きだから。 ・体を動かすことが楽しい、好きだから。 ・みんなで運動をすることが好きだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手だから。 ・運動があまり好きではないから。
③マット運動が楽しいですか。	68%	32%
	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすのが好きでもっと上手になりたいから。 ・前転ができるから。 ・難しい技ができると気持ちがいいから。 ・体がやわらかいから。 ・習い事でやったことがあるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目が回るから。 ・うまくできないから。 ・マット運動は難しいから。
④前転ができる。	94%	
⑤ブリッジができる。	87%	

アンケートの結果から、「体育が楽しい、好き」と答えている児童が9割以上を占めている。マット運動が楽しいと答えた児童の理由から、新しい技や難しい技ができるようになったときや、技を上達させられたときに楽しさを感じていることが分かった。しかし、マット運動は好きかと尋ねたところ、楽しい、好きと答えた児童の数は減った。このことから、マット運動に苦手意識をもっている児童がいることが分かる。また以前行った走り幅跳びでは、自分の記録が伸びたり、自分ができなかったことができるようになったときに楽しさを感じる児童が多かった。友達に褒められたときに喜びを感じる児童が多い一方、自分が友達にアドバイスをするという意識は低い。さらに、技能調査の結果から前転ブリッジに必要な基本的な動作ができていない児童がいる。

(3) 授業づくりの意図

【課題発見・解決】

- 児童が目的意識をもって課題に取り組むことができるように、4年生に向けた前転ブリッジの攻略本（攻略動画）を作ることを単元のゴールとする。
- 課題を見付けたり、自分に合った練習方法を選んだりできるように、毎時間タブレットで自分の動きを記録する時間を設ける。

【場や教具の工夫】

- 課題を焦点化できるようにするために、腰の動きが分かるような動画を準備する。
- 見本動画と撮影した動画を比較できるように撮影する位置を統一する。
- 自分や仲間の課題にあった練習方法を伝え合うために、動画を多く用意しておき腰の動きに着目して繰り返し評価する時間を設ける。
- 自分の課題に気付かせるためにマトリクスの表を配布する。
- はね動作を獲得できるようにするためにグループごとに補助具（ひもやボールなど）を用意する。
- 児童の意欲を高めるために、昨年度の5年生の動画をお手本動画として使用する。

【多様なかわり】

- グループ同士の関わり合いを増やしたり、仲間の動きを見えやすくしたりするために、マットの配置を工夫する。
- グループ以外の子どもたちの練習方法や課題を共有するために振り返りの時間を設ける。
- グループの中で撮影した動画を見比べながら、自分や仲間の課題を見付けることができるように学習カードを準備する。

5 単元目標と評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
単元目標	運動の楽しさや喜びを味わい、回転系や巧技系などの基本的な技を安定して行ったりその発展技を行ったりすることができるようにする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
評価規準	知識・技能 ①はね動作を通して回転や腰の動きについて言ったり書いたりしている。 ②自分の跳ねるタイミングをつかむことができる。 ③腰が沈み込んだ後、腰が上がって上体をそらすことができる。	思考・判断・表現 ①手本の動画を見比べて自分のはね動作の課題を見付けることができる。 ②ICTを活用して自分や仲間の様子を確認し、自分や仲間の課題に合った練習方法を選んでいる。 ③自分や仲間の伸びや動きの変化を見付け、伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 ①マット運動に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③場や用具の安全に気を配って活動している。

6 指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5【本時】	6	7
0	場の設定						
10	1 ねこちゃん体操 緑丘バージョン		1 ねこちゃん体操 緑丘バージョン・基本学習 (サンドイッチ)				
15	2 基本学習 前転、前転V字 バランス、ブリッジ 【前転ブリッジに挑戦してみよう】	2 お手本動画と自分の動画を見て違いを見付ける。 【お手本と自分たちの動画の違いを見付けよう】	2 基本学習 サンドイッチ 3 課題の共有・マトリクスで自分のレベルを認識 【レベルを上げるための練習方法を考えて練習しよう (アンテナブリッジ)】	2 基本学習 サンドイッチ 【アンテナブリッジでしたことを前転ブリッジで生かそう】	2 基本学習 サンドイッチ 3 お手本動画と比べて、自己の課題をマトリクスで確認する。 【レベルを上げるための練習方法を考えて練習しよう (前転ブリッジ)】	2 基本学習 サンドイッチ 【よりよい前転ブリッジに近づけよう】	【前転ブリッジのコツをまとめよう】 2 課題把握、ポイントの確認
30	3 前転ブリッジの説明 4 前転ブリッジ (11回~15回)	3 サンドイッチ・アンテナブリッジ (補助具を用いた練習)	4 アンテナブリッジ (補助具を用いた練習)	3 課題把握 はねるタイミングを見付ける。 4 ビデオ撮影 (前転ブリッジ)	3 前転ブリッジ 4 自分の課題に向けた前転ブリッジの練習	3 前転ブリッジ 4 課題の共有 (はねのタイミングの共有)	3 前転ブリッジ 4 ビデオ撮影
40	5 ビデオ撮影 (前転ブリッジ)	4 ビデオ撮影 (アンテナブリッジ)	5 ビデオ撮影 (アンテナブリッジ)	5 前転ブリッジ練習	5 ビデオ撮影 (前転ブリッジ)	5 前転ブリッジ 6 ビデオ撮影	5 前転ブリッジ 6 コツを最後全体で確認
	学習カードに振り返りを記入・片付け						
知識・技能						② ICT	①③ 観察・ 学習カード
思考・判断・表現		① 観察・ICT		③ ICT	② 学習カード		
主体的に学習に取り組む態度	① 観察		②③ 観察				

指導計画

評価の観点

7 本時の学習展開

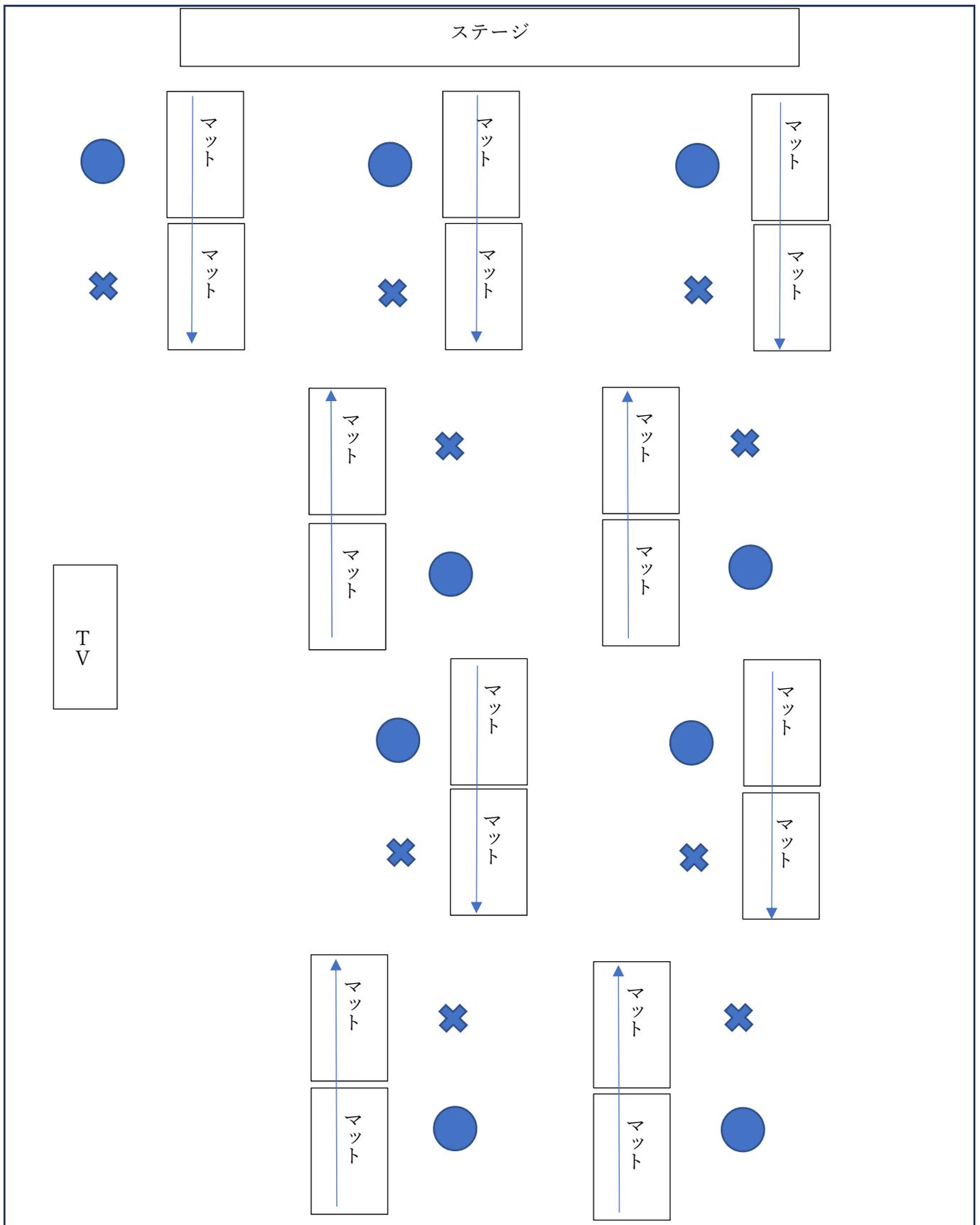
(1) 本時の目標

ICTを活用して自分や仲間の様子を確認し、自分や仲間の課題に合った練習方法を選ぶことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	○児童の学びに対する留意事項 ◎評価規準 (評価方法)				
<p>1 ねこちゃん体操、基本学習 (サンドイッチ 10 回)</p> <p>2 お手本動画と見比べて、マトリクスで教師の課題と自分の課題を見付ける。</p> <table border="1" data-bbox="76 577 689 824"> <tr> <td>腰がおりていないがあがっている (レベル 2)</td> <td>腰がおりているがあがっている (レベル 3)</td> </tr> <tr> <td>腰がおりていないしあがっていない (レベル 1)</td> <td>腰がおりているがあがっていない (レベル 2)</td> </tr> </table> <p>・腰がおりずにブリッジしているからレベル 2 ・腰がついてからブリッジしているからレベル 1</p> <p>3 本時のめあての確認</p>	腰がおりていないがあがっている (レベル 2)	腰がおりているがあがっている (レベル 3)	腰がおりていないしあがっていない (レベル 1)	腰がおりているがあがっていない (レベル 2)	<p>○はね動作に必要な動きを確認できるように、基礎練習を行う時間を設ける。</p> <p>○児童が自己の課題を把握しやすくできるように、教師の実技動画を取り上げマトリクスのどのレベルなのか考えさせた後、自分の動画のレベルを確認する時間を設ける。</p> <p>○腰の動きに着目しやすくするために、腰の動きが分かるような動画の見せ方を工夫する。</p> <p>○児童が課題に合わせて練習方法を選べるように、教師の実技動画の課題に対しての練習方法をアドバイスする時間を設ける。</p> <p>○レベル 3 の前転ブリッジを判断できるように、児童たちとレベル 3 のブリッジの特徴を確認し、ホワイトボードに残しておく。</p>
腰がおりていないがあがっている (レベル 2)	腰がおりているがあがっている (レベル 3)				
腰がおりていないしあがっていない (レベル 1)	腰がおりているがあがっていない (レベル 2)				
<p>レベルを上げるための練習方法を考えて、練習しよう。</p>					
<p>4 自分の課題にあった練習方法を試す。 腰があがらない人→・ひもを使ってひもをこす練習 ・手の補助 など</p>  <p>(ひもをこす練習)</p> <p>腰がさがらない人→・ボールを使う ・手の補助 など</p>  <p>(ボールを使った練習)</p> <p>5 動画をとる。 6 振り返りをする。 ・友達にタイミングを教えてもらってはねるタイミングが分かった。 ・グループの子のはね動作のタイミングを声掛けできた。</p>	<p>○課題に合わせて練習方法を選べるように補助具を用意しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足をしっかりとばして腰を上げる感覚をつかめるようにひもを用意しておく。 ・腰が沈んでから腰を上げる感覚をつかめるようにボールを用意しておく。 <p>◎ICTを活用して自分や仲間の様子を確認し、自分や仲間の課題に合った練習方法を選んでいる。(観察・学習カード)</p> <p>○関わり合いを広げるために、児童の課題に合わせてグループの中で声掛けをするなど関わり合いながら行っているところを取り上げる。</p> <p>○関わり合う時間をつくるために、自分のレベルが上がったと感じたときはグループの子最低 2 人には見てもらい、合格をもらうこととする。</p> <p>○自分の動きがどう変わっていったかが分かるようにするために練習しながら動画を撮影する時間を設ける。</p> <p>○以前の自分の動画と比較をして学びを実感するために動画を撮影する時間を設ける。</p> <p>○今日の学習での伸びを実感できるように、自分の動きの中で気付いたこと・課題・できるようになったことを学習カードに記入する時間を設ける。</p>				

【場の設定】



※バツ印をつけてこの場所で動画をとる。

● はひもやボールなどの補助具の位置